

試験研究活動情勢報告 (平成 29 年 12 月分)

【果樹試験場】

「水晶文旦」収穫後の保蔵技術



貯蔵中の「水晶文旦」の
果実

3月上旬加温開始、10月下旬収穫の施設栽培「水晶文旦」の作型では、収穫前に酸含量が上昇して収穫時の酸含量が1.2%以上になり、食味不良になる場合があります。そこで、収穫後の減酸方法について検討した結果、35℃・高湿度状態で2週間ほど保蔵すると0.2%ほど酸含量が低下し、食味も良くなることが明らかになりました。更に、小売店での保蔵も想定し、その後の保蔵条件も検討した結果、5℃・高湿で保蔵することで1カ月ほどは外観の変化も認められず、酸度や糖度も保持できることが明らかになりました。

今後は、栽培技術も併せた3月上旬加温開始に関するマニュアルを作成する予定です。

「土佐文旦」の種なし化栽培における夏秋梢発生の抑制技術



調査のため切除した夏秋
梢

「土佐文旦」の種なし化栽培では通常（受粉をして種あり）栽培と比べて夏秋梢の発生が多く、果実が小さいことが問題です。そこで植物成長調整剤の1-ナフタレン酢酸を利用して夏秋梢の発生を抑制し、果実肥大を促進させる技術を検討しました。2年間実施した結果、夏秋梢の発生を抑制でき、果実肥大も促進できました。しかし、別薬剤との近接散布によると考えられる薬害の発生がみられたため、次年度以降は使用方法についても検討していきます。

アボカド苗木の耐寒性の検討



わらで囲ったアボカドの苗木

温暖化により現在栽培されている品目の栽培が困難となった場合の代替や、粗放的な栽培が可能で、鳥獣害も受けにくい、中山間地域の耕作放棄地においても、導入可能な果樹品目としてアボカドが注目されています。アボカドの導入を成功させるためには冬の寒さに耐える必要があるため、場内の露地圃場において最小限の防寒対策をした上で苗木が越冬可能かを検証しています。